



2010-11



RIテーマ「地域を育み、大陸をつなぐ」会長/RayKliginsmith(米国)
2620地区のテーマ「ロータリアン、奉仕をクラブへ地域へ」ガバナー/中山正邦
パワー浜松ロータリークラブのテーマ「見つける明日、見つめる原点」会長/坂井光蔵

週報

第391回例会 4月26日(火)AM 7:30~8:32 オークラクトシティホテル浜松4F平安の間

■司会:後藤 達朗 ■点鐘:坂井 光蔵 ■ロータリーソング:希望のエナジー

会長挨拶

日曜日、2011-12年度の予算折衝を行い、概算の予算は決まりました。
先週、37歳で企業され障害の有る方をその会社で雇用し、利益を出し続けている社長の講演会に出席しました。「アスペルガー症候群」という話が出て私は聞いた事も無かったのですが、世界的に有名なマイクロソフト者のビルゲイツ氏が、この病気だと言うことです。この病気は、対人関係が苦手ですが、他の事には長けていると言う事です。私の会社に当てはまる社員が居ないか、居る様ならば接し方や話し方を考え直さないといけないと思いました。私も優しく接し、弱い部分は受け入れ、良い部分を伸ばして行こうと思いました。

幹事報告

- ①本日、例会終了後8:40~3F・メイフェアの間で理事会が開催されます。出席義務者の方は、ご協力お願いします。
- ②地区協議会でも話題に上がりました『グリーンプロジェクト』のお知らせです。希望者は、幹事迄お申し出下さい。
- ・期間;2011年3月~9月末
- ・内用;地球温暖化防止活動で、省エネとCO2削減を目的につる性の植物をネットに這わせ、窓の外を覆って作り出す自然のカーテン
- ・応募;2011年5月2日迄に応募用紙に記入してガバナー事務所へ提出。

委員会報告

職業奉仕Pj・藤田允さん:先日、堀内さんと野田さんと私で来月の訪問を前にねむの木学園に行きました。5月13日に訪問予定ですが、現在13名の参加しかありません。桜がきれいでも非常に良い処ですし、宮城まり子先生もご高齢で83歳になりますので、直接お話を聞く機会もこれからなかなか難しいと思います。是非ともご参加の方をお願いします。

奉仕Pj/富田清志さん:第393回例会で開催します講演会の案内を配布しました。4回目の講師の方は、小川修治さんです。是非、皆さま多数のご参加をお願いします。

ハッピーバースディ

八田峰夫:5月19日生
河村正隆:4月30日生
金子公昭:5月1日生



ハッピーバースディ:河村さん

出席報告

80名中62名77.50%
前々回修正出席率



スマイル

原田道子;今日からチャールズ絵画展がクリエートで日曜日まで開催されます。災害支援のチャリティバザーも開催します。小さい絵画が安く手に入ります。詳細が分かる葉書を希望の方は、原田道子までお願いします。
林 竹計;プレ葉ウォーク浜北にビワの木プレ葉店を4/29グランドオープン致します。スペースが35坪と広く餃子だけでなく、鉄板で出来る料理として「お好み焼き、焼きそば」そして「喫茶」を加え営業していきます。お近くにいられたら、是非寄って下さい！

パワー浜松ロータリークラブ事務局/〒430-7733 静岡県浜松市中区板屋町111-2 オークラクトシティホテル浜松4307号室
Tel/Fax 053-452-0800 Email info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp/
創立/2002年10月22日 RI承認/2002年11月27日 認証伝達式/2003年4月29日 スポンサークラブ/浜松中ロータリークラブ



2010-11



RIテーマ「地域を育み、大陸をつなぐ」会長/RayKliginsmith(米国)
2620地区のテーマ「ロータリアン、奉仕をクラブへ地域へ」ガバナー/中山正邦
パワー浜松ロータリークラブのテーマ「見つける明日、見つめる原点」会長/坂井光蔵

議事卓話

第391回例会
2011年4月26日
国際奉仕PJ

セシルマケさんホスト家庭・仲秋さん、近藤さんの卓話 「セシルさんとの交流で感じたこと」

仲秋篤志さん

今回我家で初めての長期のホームステイを受け入れるということで、期待と不安を持ってセシルとの生活をスタートしました。来日当初は長時間のフライトの疲れとホームシックにかかり、こちらも心配していたのですが、地区の他の留学生と交流をしたり、北高のクラスメイトに歓迎され、徐々に元を取り戻していききました。

私たちは、セシルは家族の一員だという意識を持って接していましたので、彼女に対して特別なことはしませんでした。まずはセシルが早く日本の学校生活に慣れるように、普段の生活を大切にしました。食事も、できるだけ家で食べるようにしました。ベルギー・フランスの料理以外は、ほとんど口にしたことがないということだったので、最初は毎食お互い緊張していました。少しずつ食べられるものも増えていったのですが、比較的嫌いなもの、苦手なものが多かったように思います。とりわけ、うなぎ・天ぷらなどの日本食や、甘辛い味付けを好んでいました。週末には、ロータリーのメンバーの方からお声を掛けていただいて、堀内さんご夫婦と坂井さんと一緒に島田の千年杉を見に行ったり、林さんにはパーティに呼んでいただいて茶道を経験したり、GSEの方々と一緒に筑紫さんの日本舞踊を拝見させていただいたり、金山さんには書道を教えていただいたり、岩本さんには合掌造りの家屋を見せていただいたり、たくさんの方々と交流できました。坂本さんには、セシルに着物をプレゼントしていただきました。また、私たちができる範囲で、浜松市内の観光や買い物と一緒に出かけました。セシルは大人びてみえますが、中身はまだ10代の女の子で、笑ったり泣いたり感情を表に出して、何でも隠さずに話してくれました。セシルに自室を用意していたのですが、ほとんど居間で私たちと一緒にテレビを見たり、おしゃべりをして過ごしました。最初は、家族として接しようと思っていたのですが、そんな天真爛漫なセシルと生活していくうちに、無意識に家族になっていったような気がします。また、セシルは日本語の習得に対する意識も高く、日本語の授業以外にも、耳にしたり、教えてもらったりした日本語をノートに書きとめ、努力していました。その結果、早い段階で日常会話レベルの日本語を習得できたのだと思います。

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震により、急遽帰国が決まった時に、セシルは、本当はまだベルギーに帰りたくない、大粒の涙を流していました。一日目にホームシックにかかって泣いていたセシルの面影はなく、今では日本が第2の故郷のように感じているのだと改めて感じました。セシルの日本での留学生活が突然中断されることになってしまい、本当に残念でしたが、彼女にとっても、私たちにとっても、かけがえのない素晴らしい経験になったと思います。

近藤雅彦さん

多分、私たちが本日、卓話をするようになった目的は、セシルがいなくて、その代役でいうことが大きいとは思いますが、その他に今後、ホストファミリーをするにあたって、意外と皆さんの家庭でもできるんだということをお知らせすることが大切なのだと思います。我が家でホストファミリーを引き受けたのは、妻が以前に「ホストファミリーをしてみたい。」と言っていたのを聞いて、それを何となく安間さんにも伝えてあったのがきっかけだと思います。

さて、現実ホストファミリーの話が具体化して、2つばかり、問題を感じていました。一つは今、言いましたようにマンション住まいで部屋が狭いこと、また、部屋だけではなく、マンションというのは全体的に余分なスペースがないので、キッチンや洗面所など共有のスペースも狭いというのが一つの問題でした。もう一つは、妻も独自で働いており、絵画教室を運営していて終わるのが夜の7時過ぎになるので、それから食事の支度ということで夕食が8時半からへたをすれば9時をすぎることになってしまい、食べ盛り的高校生にとってそんな環境で良いのかなということが問題と感じました。

まず、部屋の問題ですが、私のマンションは3LDKで、実質的にリビングと寝室しか常時使っておらず、それ以外の2つの部屋は半分、物置状態でした。2つの部屋の一つは6畳の和室でこちらへモノを全部入れて、5畳半くらいの洋室をセシルの部屋としました。セシルにとっては狭かったかもしれませんが、まあ、特に問題もなく過ごすことができました。ただ、年頃の若い娘と同居ということで、シャワーを浴びてパンツ1枚でリビングに出ることは出来なくなりました。朝の出勤時等も洗面所が困るかなと思いましたが、私とセシルとは使用する時間帯が違ってまして、私が出勤するくらいの時間にセシルが起きだすということであまり問題になることはありませんでした。次に夕食の問題ですが、さすがに遅くなるとお腹が減るようでしたが、常時、食パンをかっておいて、お腹がすいたらそれを食べるということで、こちらもあまり問題になることはありませんでした。ただ、我が家には子供がいなくて、妻がどうしても家に帰って食事を作らなければならないということが今までありませんでした。妻にとっては夜の食事を作るということがそれなりにプレッシャーになったようです。食事の問題というのは実は結構、大変だったのはセシルが非常に好き嫌いが多かったという点です。単に日本食が食べられないということではなく、例えばキノコ類とか生の野菜がほとんど食べられないということで、ヨーロッパなら菜食主義の人も多いだろうととちよつと思議でした。彼女の偉いところは、それだけ好き嫌いが多くても、初めてのモノは必ず口に入れて判断することで、食わず嫌いということはありませんでした。もっとも少々困ったのは、ご飯は大好きなのに、もち米がまったくダメでお餅はもちろんせんべいや大福も食べられないというので何が違うのか、とても不思議でした。

言葉の問題ですが、我が家の前の仲秋君の家では奥様が英語は堪能ということであまり不自由はしなかったようですが、我が家では英語ができないのでどんな感じになるか、少々不安を感じておりました。当初は日本語交じりの怪しい英語を交えて会話をしていたのですが、そんなことをするよりも、ゆっくりとした正しい日本語で話した方が良いということになり、会話はほぼ日本語で行いました。1か月もしない間に相当、上達したようで久しぶりにあった仲秋君の奥様は、セシルの日本語の上達にびっくりされていました。

日常生活ですが、学校から帰ってくるのが多分4時くらいだと思うのですが、ほぼ毎日、ベルギーの友達や両親たちとスカイプやFacebookをしていました。私もスカイプを通してセシルのお母さんに挨拶をしました。セシルの生活にとってパソコンは欠かせないものになっていました。着物にセシルは非常に興味をもっており、何度か妻がセシルに着付けを教えて、家から出た後も着物を着る機会を作って練習しようと言っていたのですが、途中で帰ってしまいましたのでたして着れるようになったのかどうか？

セシルと過ごした3ヶ月間は私たち夫婦にとって、本当にかげがえのない3ヶ月間だったと感じています。正直にいうとホストファミリーは妻の方がかなりの負担を受けますので、共働きのなかで大変だと思います。特にセシルは、食事の面などでちよつと大変だったかもしれませんが、とても真面目で、きちんと自分を律することができて頭の良い子でしたので引き受けるにあたって比較的、楽だったと思っています。うちも仲秋君のところも子供がいなくて、もしかしら子供のいる家庭ではちよつと感じ方も違うのかもしれません。今後もロータリーで留学生を受け入れることがあると思いますが、我が家でできたことですので、かなり多くの家庭でホストファミリーになれると思います。ただ、奥さんの絶大な協力がいないと、というか、奥さんがその気になってもらわないといけないと思いますので、今後、ホストファミリーを探すときは是非、奥さんをターゲットにお願いしていくというのが良いと思います。



POWER

パワー浜松ロータリークラブ

〒430-7733
静岡県浜松市中区板屋町111-2 オークラクトシティホテル浜松4307号室
Email info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp/

Tel/Fax 053-452-0800